



3
万
年
前
福
知
山
京
丹
後
に
狩
人
が
い
た

福知山市 稚見野遺跡

京都最古の狩人たち

後期旧石器時代前半の遺跡を中心に

京丹後市 上野遺跡



旧石器時代はどんな時代？



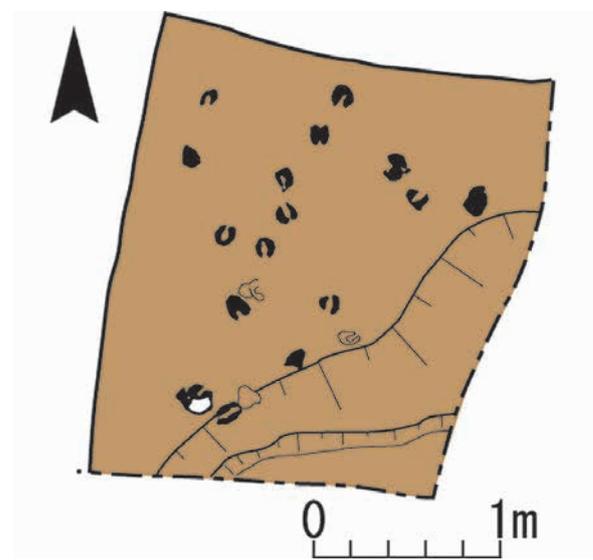
(C.J.Baeetal 2017 On the origin of modern humans:Asian perspective から改変)

人類の誕生と旧石器時代人の動き

旧石器時代は300万年以上前に始まります。6万年以上前にアフリカを出発した現生人類(ホモ・サピエンス)は、5~4万年前に、極東アジアに到達しました。日本列島への移動ルートとしては北海道、対馬、沖縄を經由した3ルートが有力視されています。最も有力な対馬ルートの起点である朝鮮半島では、4万2千年前に現生人類が残した遺跡が見つっています。日本列島には、3万8千年前に到達しました。その後1万6千年前に土器の利用をはじめ縄文時代に移行します。現生人類の生きた最初の時代を後期旧石器時代と呼び、日本では3万年前を境に前半と後半に分けています。

ナウマンゾウのいた時代

後期旧石器時代前半は7万年前から始まった氷河期が少し暖くなる亜間氷期に始まりますが、現在よりも気温が低く、植生も異なっていました。ナウマンゾウやオオツノシカ、原牛などの狩りの対象となる大型草食動物も住んでいました。京都府では京都市の動物園内の発掘調査や向日市殿長遺跡で旧石器時代の大型獣の足跡が見つっています。ひづめが2つに分かれていることから、ウシやシカの仲間と考えられます。



向日市殿長遺跡の大型獣の足跡



(図解日本の人類遺跡 1992 挿図を改変)

後期旧石器時代前半の日本列島

後期旧石器時代前半の遺跡で発見される石器には、じんぶませいせきふ刃部磨製石斧や台形石器が含まれることが多く、その文化は九州地方から東北地方まで広く分布しています。京都府のちごの稚見野遺跡や上野遺跡は同じ時代の遺跡と考えられます。

当時の人々は獲物を求めて移動し、大型の動物などを食料としていました。台形石器は柄の先につけて槍などの狩猟具として利用されていたと考えられています。石器には鋭い刃を作るのに適した石材が選ばれており、遠隔地から運ばれることも多くみられます。

旧石器時代人の歩んだ道

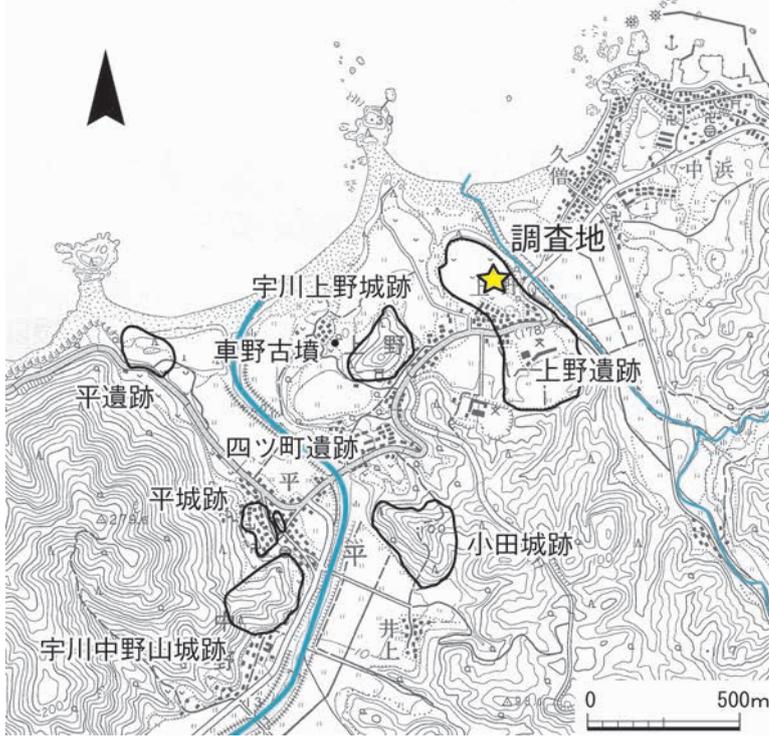
人々は、海岸伝いや内陸部の河川沿いに移動しました。近畿北部では日本で最も低い分水嶺越えルートである氷上回廊や日本海沿いが交通路だったのです。



氷上回廊と後期旧石器時代前半の遺跡

うえのいせき 【上野遺跡】

京丹後市丹後町上野

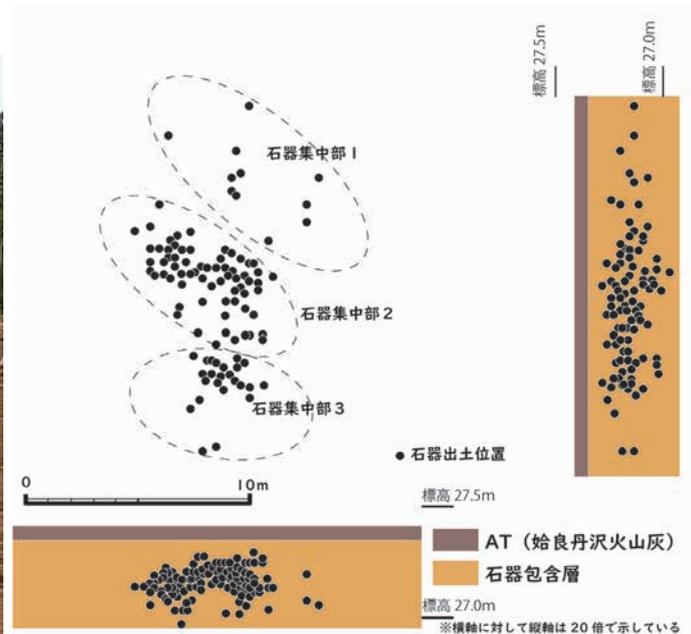


発見の経緯

上野遺跡の調査は、府道上野平バイパスの整備工事に先立って実施しています。平成30年度の発掘調査で下層から旧石器が出土しました。翌年令和元年度の調査で始良丹沢火山灰層（AT層：約3万年前）と大山倉吉軽石層（DKP層：約6万年前）の間に石器群が存在することを確認しました。

遺跡の立地

上野遺跡は日本海に面する標高約27mの海岸段丘上に位置します。類似の台地（段丘）は、丹後半島の海岸線に広く分布しています。当時は現在の海面下に平原が広がり、旧石器時代の人々が、平原や海を見下ろせる台地から台地へと獲物を求めて移動していたことが想定できます。



石器の出土位置図

発掘調査と出土状況

旧石器時代遺跡の発掘調査は、非常に小さな石器を確実にみつけるために、2mのマスを設定し、それぞれの地面を少しずつ削りながら掘り下げるといった作業を繰り返します。石器が出土するたびに出土位置を正確に記録していきます。

令和元年度の調査区では、約150点の石器が出土しました。石器の分布状況から3つの石器集中部（ブロックと表現されることがあります）を確認しました。この分布状況は、旧石器時代の人々が、製作場所を変えながら石器を作っていたことを教えてくれています。



壁面での石器の位置



火山灰と古土壌からなる堆積

上野遺跡は、海・山・川から離れた小高い丘の上に立地しており、その地層は、洪水などの水性堆積はなく、砂丘などと同じく風によって運ばれた小さな砂粒等の堆積によって構成されています。そのため、石は人間が持ち込まない限り含まれることはありません。地層には赤っぽい土と白っぽい土が見られますが、赤みの強い土は暖かい時期に、白みがかかった土は寒い時期に積もったものとされています。これらの土壌を古土壌と呼び、時代を知るための大きな物差しとして使われます。これら古土壌の間には、遠くから風に乗って運ばれてきた火山灰が堆積していることがあります。火山灰にはガラスの粒が含まれており、ガラスの成分を調べることにより、どこの火山のどの時代の噴火によるものかわかります。上野遺跡では、約6万年前の大山倉吉軽石と約3万年前の鹿児島湾からの始良丹沢火山灰が堆積しており、その間に石器を含んだ層がありました。

小さな石器

見つかった石器は、ごく小さな石の破片で作られたものでした。割り方も不規則で、粗雑にたたき割り、使えそうな形の石を選び出して石器が作られていることがわかります。狩りや獣の解体などある程度使用目的の定まった石器に、台形石器、きよしえん 鋸歯縁石器、えぐりいり 抉入石器があります。これら不定形な剥片を用いて作られた台形石器などの特徴から、後期旧石器時代のなかでも、前半のおよそ3万6千年前の日本列島最古相の石器群と位置付けられます。

なお、石器の材料は、ぎよくずい チャートや玉髄、凝灰岩、黒曜石などが用いられています。これらの石材は、遺跡の近くでは産出しないことから、旧石器時代人が遠くの地からこの地に運び込んだものです。



ちごのいせき 【稚児野遺跡】

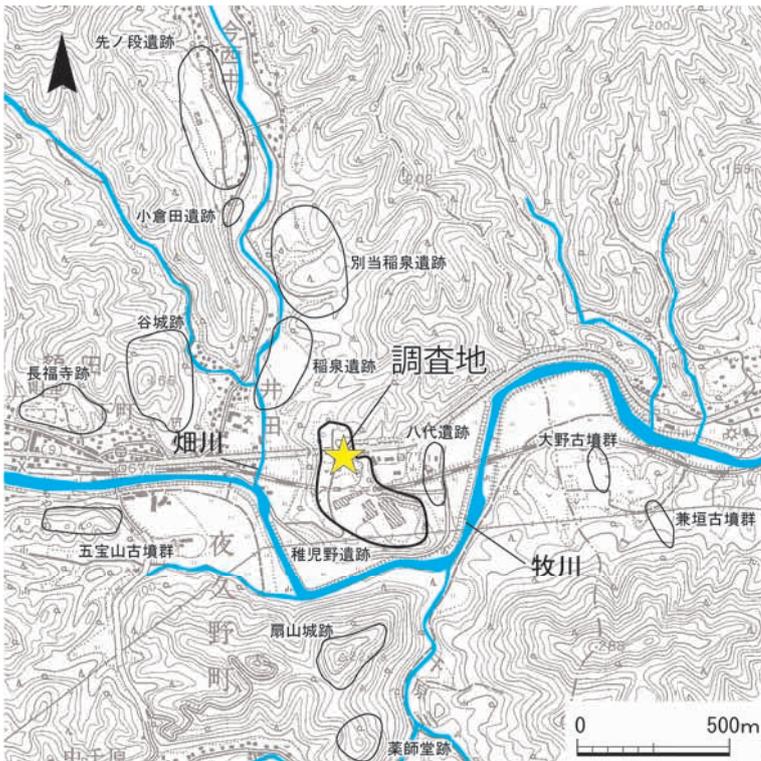
福知山市夜久野町井田

発見の経緯

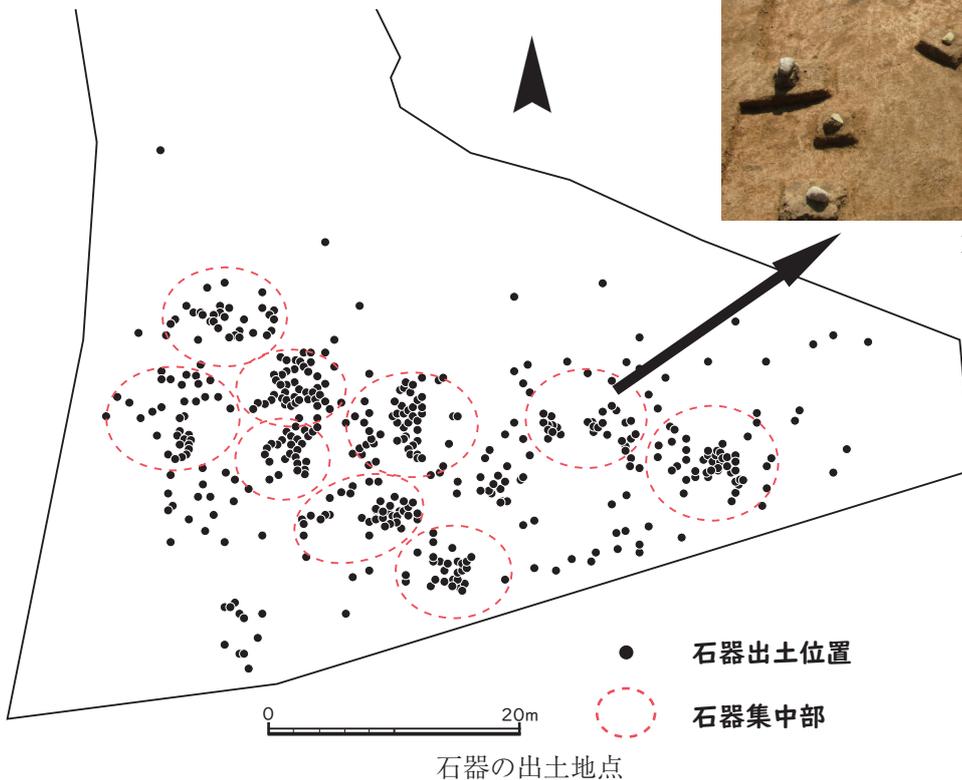
稚児野遺跡の調査は、国道9号線の改良工事に先立って、令和元年度から3年度にかけて実施しています。

遺跡の立地

稚児野遺跡は、牧川と畑川の二つの河川により形成された河岸段丘上にあります。旧石器時代遺跡のほとんどは、このような平野を見下ろす小高い台地上にあります。稚児野遺跡は旧石器時代のムラまたはキャンプサイトであることが、およそ800点の石器類の出土で明らかとなりました。



石器の出土状況



石器の分布がもつ意味

旧石器時代遺跡では、通常いくつかの石器集中部（ブロック）が確認されます。石器集中部は、石器を作る際に飛び散った石屑や、石器の分布範囲を表しています。今回の調査では、台地の南東から北西にかけて石器の分布が帯状の広がりを見せ、そのなかで9カ所の石器集中部を確認しました。日当たりのいい南向きの場所で石器作りをおこなっていたと思われます。

石器集中部の存在は、石器作りを行っていた証拠ですが、住居跡や火を使つての調理場などの痕跡が見つからないことから、ムラやキャンプサイト内における他の生業についてはよくわかりません。今後の発掘調査で見つかるかもしれません。



年代の決め手はなにか

石器類は、約3万年前に噴火した始良丹沢火山灰(AT層)を含む層の下層から出土しました。これにより3万年よりも古く、石器類の特徴などからおよそ36000年前と推定することができました。

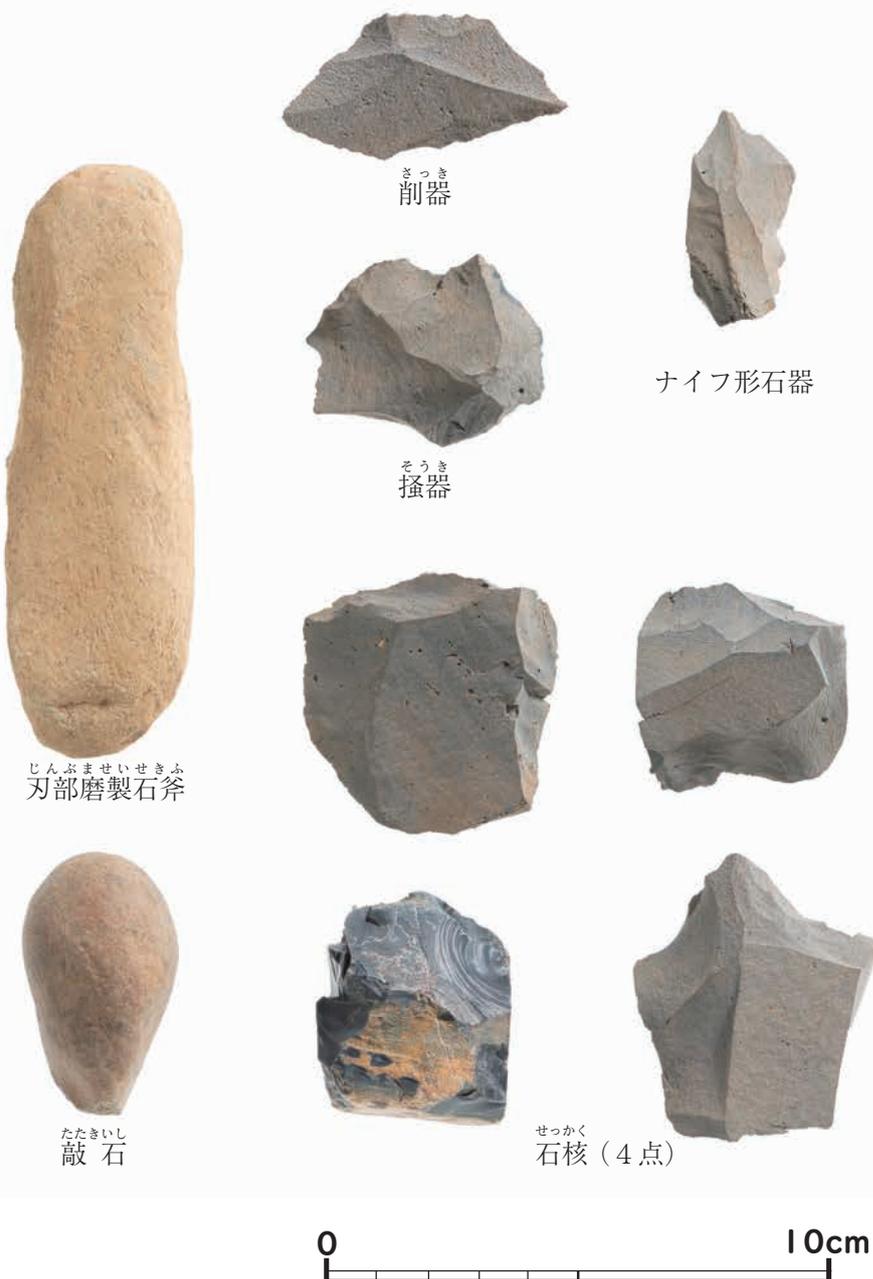


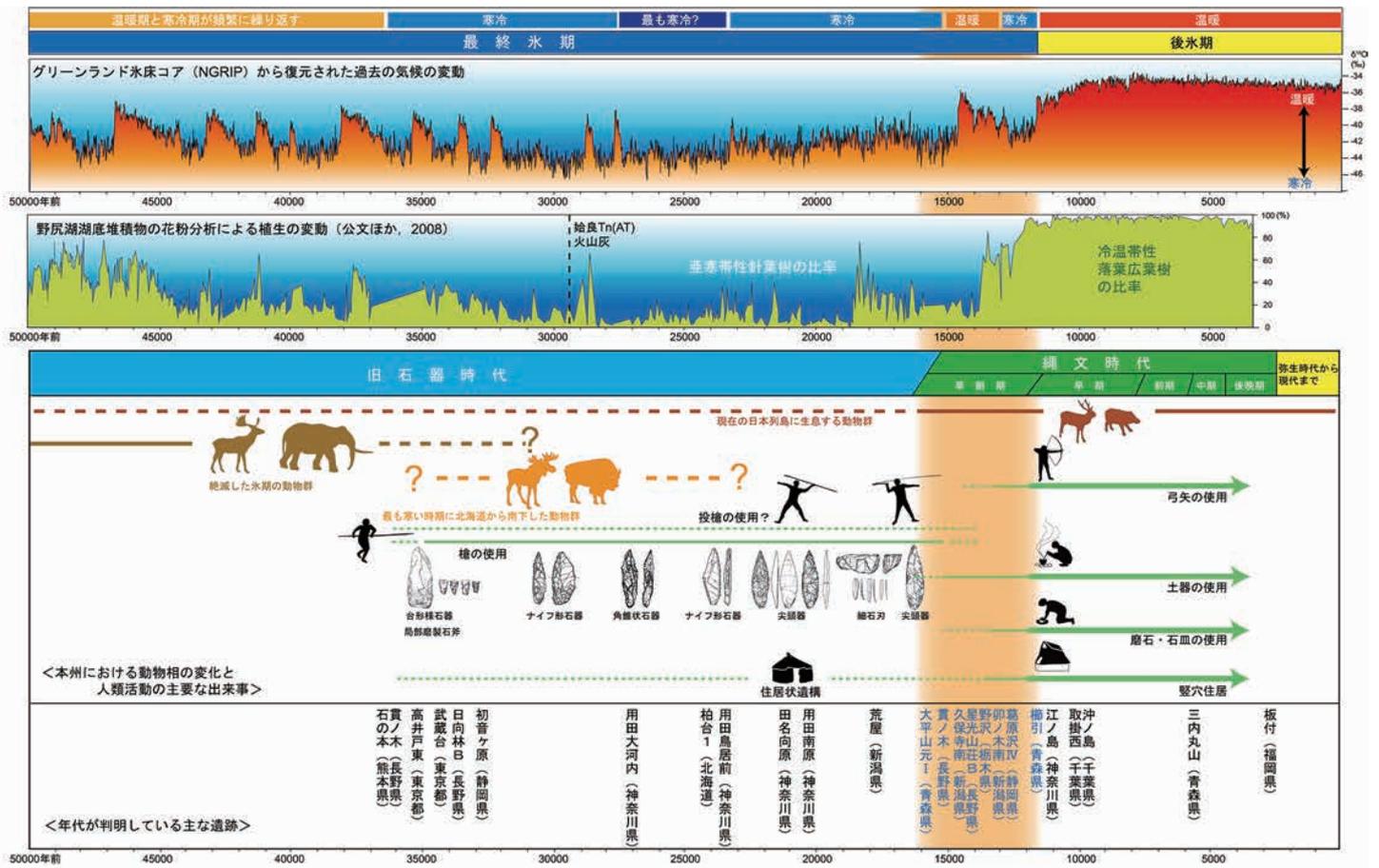
出土した石器はどのようなもの

石器類のほとんどは石器作りの過程で出た剥片・碎片(石屑)などですが、狩猟具であるナイフ形石器、木・皮・骨角などを加工するための削器や搔器、伐採具である刃部磨製石斧、石器製作用の敲石(ハンマー)などがあります。

ナイフ形石器は3点出土しています。これらは一部に刃つぶし加工がされて作られており、ペン先形をしています。北関東地方や、東北から北陸の遺跡群の影響がうかがえます。また、近畿中央部で多く見られる国府型ナイフ形石器を作成した瀬戸内技法は明瞭にはみられません。氷上回廊と面しており、丹波山地と日本海側の中継地点として重要な役割を果たしていたと考えます。今回出土したナイフ形石器と刃部磨製石斧は、後期旧石器時代前半期に特徴的に出土する石器で、その典型例といえます。

石材には、サヌカイト、チャート、黒曜石、シルト岩などがあります。サヌカイトと黒曜石は産地がそれぞれ二上山と隠岐島で、はるかな遠方より持ち込まれています。石材搬入の方法、経路について今後考える必要があります。





過去5万年間の環境の変化と人類活動

(工藤 2009「縄文はいつから!？」 国立歴史民俗博物館から転載)

京都府南部の2万年前のナイフ形石器

京都府南部では3万年前に遡る旧石器は発見されていませんが、京都盆地及びその周辺の台地上からは、3~2万年前の国府型ナイフ形石器が出土します。特に長岡京市の開田遺跡・十三遺跡、八幡市的美濃山遺跡・金右衛門垣内遺跡から多く出土しています。

これら国府型ナイフ形石器は、いずれも大阪府と奈良県の境にある二上山で産出するサヌカイトを用いて、瀬戸内技法で製作されています。



埋蔵文化財セミナー小冊子 発行日 令和3年11月27日

編集・発行 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内 40-3 TEL.075-933-3877 Fax.075-922-1189

ホームページアドレス <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>